

2011年3月議会：予算討論（2011年03月23日）

3・11東日本大震災は予算審議直前に発生した。

危機に公式対応しない島原市 官民格差は放置のまま

*****松坂まさおの討論の要旨です*****

被災者を思いやる市民の目線で『反対の討論』をいたします。噴火20周年予算のこと、人件費問題のこと、二点を取り上げます。

■東日本支援を公式に表明せよ

今回噴火災害20周年の記念事業として4千円が計上されています。その中に例えばキムヨンジャコンサート7百万円が含まれています。たしかにキムさんは当時災害下の島原にボランティアで励ましに来ていただいて、被災者に希望を与えてくれました。しかし、今回の未曾有の災害を前にして、このコンサートは見合わせるのがスジではないか。噴火20周年の予算は縮小して、その分被災者受け入れとか、災害支援とかにまわすべきです。

予算委員会で副市長は、そのような方向で考えているし、市長も同意見だと答弁。しかし予算は予算、先ず通過させてくれ、と。（口約束だけなら議会は不要です。）

だからこそ、その意思表示として、この災害復興20周年の象徴的予算を東北の復興支援に回すことを公式に組みなおすことに意味がある。島原が先駆的にこうした行動を起こすことが、大事である。

しかし当局は、しないとは言っていないが、後回しにするという。他の自治体を追いかけるように補正を組んでどうなりますか。

■官民格差は放置のまま

2点目、人件費の問題を指摘します。今年度も職員一人当たり費用は増加しています。医療介護費が増加するので共済費が上がるからなどと、当然といわんばかりの説明に驚いてしまいます。市民は給料は上がらなくても、国民健康保険料は上がりました。

ゴミ処理の人件費を例に考えてます。ゴミ処理に当たる39人の人件費が計上してあるのだけれど、正規職員12名の人件費は給料・職員手当等・共済費合算で一人平均880万円。一方年次契約の27人の職員さんの人件費は一人平均226万円です。仕事の内容は3人がチームを組んでゴミを収集するというもので、正

職員も年次雇用者も仕事内容にほとんど差はないと言っています。同じ仕事を片や880万円、片や226万円。まさに4倍の格差です。この格差はナントカならないでしょうか。市民の側からすれば、この226万円の方の仕事でもありがたい、空きがあったら採用して欲しいと思っている。

この880万円の内訳の中に、特殊勤務手当がある。危険が伴うという趣旨でしょうが、これは正職員だけの特権です。さらに時間外手当もある。なんで時間外が発生するのでしょうか。ローテーションを組んで休日を振り替えれば済むではありませんか。

今回の人事費単価上昇の理由に、共済費の増加とあわせて時間外手当の増額がありました。今年は選挙等があるからと、一人当たりにして4万3千円以上の時間外手当増額です。市長は土日開庁を実現するに当たり、休日振り替えで対応して時間外を発生させないようにしているとおっしゃった。ならば選挙だって同じでしょう。選挙に対応した時間分を平日に振り替えれば済むじゃありませんか。

市民からすれば、危険手当でも時間外手当でも、仕事が喉から手が出るほど欲しいんですよ。特殊勤務手当という特権の付く部署（ごみ収集・税務の徴税係とか）は、選挙事務は辞退してもらっていいではありませんか。

選挙事務の時間外を極力押さえて、そのお金は全額東北の津波災害に回すべきです。

それから、去年も指摘しましたが、高度成長期の良き時代に導入された『役職加算』ですね。ボーナス支給に際して、ただでさえ給料の高い上級者ほど高い利率で割り増し支給がある。これは民間の事情に合わせて廃止すべきです。

官民の格差を無視して、民間の苦しい事情に、全く配慮を欠いた人件費の特に諸手当の予算組みに、怒りすら覚えます。

以上市民の常識から大きく外れている、災害予算と人件費の扱いの二点を指摘して反対討論とします。